

がんゲノム医療外来について

「がん遺伝子パネル検査」をご検討の先生は、以下をご一読ください。
ご理解いただいた上で臨床遺伝子診療科がんゲノム医療外来にご紹介をお願いします。

1. がん遺伝子パネル検査とは

「がん遺伝子パネル検査」では、患者さんのがん細胞の特徴をゲノム解析によって網羅的に調べ、がんと関連する多数の遺伝子の状態を確認します。解析結果は医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、認定遺伝カウンセラー、バイオインフォマティクソンをはじめとした、多職種多分野による専門家会議(エキスパートパネル)で議論し、治療効果が期待できる薬剤や、参加できる可能性がある臨床試験・治験の有無を含めた最適な治療法を検討します。

2. がん遺伝子パネル検査の利点と限界

- 以下の点を患者さんにご説明ください。

治療選択に有用な情報が何も得られない可能性があること

- 解析に用いた検体の品質や量によっては、解析自体が不成功に終わる可能性があること

- この検査を受けた方のうち、検査結果に基づいた治療を受けられるのは現時点で約1割程度に留まると想定されていること

なお、この検査によって治療効果が期待できる治療薬の情報が得られた場合でも、その治療薬の効果を保証するものではありません。

3. 検査後の治療について

当外来は検査外来です。がん遺伝子パネル検査は、現在通院中の主治医の判断に必要な情報を提供するものであって、検査後の治療は現在治療を行っている主治医の判断となります。

この検査の結果が、主治医の判断よりも優先されることはありません。

4. 保険適用の対象となる患者さんについて

2019年6月に「OncoGuide™ NCC オンコパネルシステム」と「FoundationOne® CDx がんゲノムプロファイル」の2種類のがん遺伝子パネル検査が保険収載され、保険診療で検査を実施できます。また、2021年8月より「FoundationOne® Liquid CDx がんゲノムプロファイル」が保険適用となりました。

保険適用の対象となる患者さんは、下記の通りです。

① 下記のいずれかの診断を受けた方

- 標準的な治療法が確立されていない希少がんや原発不明がんの方
- 標準治療が終了となった、あるいは終了が見込まれる固形がんの方

② 全身状態や臓器機能等から、がん遺伝子パネル検査実施後に、化学療法の適応となる可能性が高いと主治医が判断した方

「FoundationOne® Liquid CDx がんゲノムプロファイル」は、下記の場合に検査できます。

- #### ① 医学的な理由により、固形腫瘍の腫瘍細胞を検体としてがんゲノムプロファイリング検査を行うことが困難な場合

- ② 固形腫瘍の腫瘍細胞を検体として実施したがんゲノムプロファイリング検査において、包括的なゲノムプロファイルの結果を得られなかった場合

腫瘍細胞を検体とした検査が可能な場合は、そちらが優先されます。

上記より保険適用のご判断を含め、紹介前にご検討ください。

なお、保険診療とは別に、保険外診療(自費での診療)のがん遺伝子パネル検査も従来通り行っています。